



国際会長 (IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE”

「命の川を信じよう」

会長 古賀 健一郎
副会長 金子 功
書記 金子 功
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 奥菌 一紀

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

「変化を楽しもう」

“Let's enjoy 'Changes' ”

湘南・沖縄部部长 (DG) 古田 和彦 (横浜)

「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に仕えよう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「クラブ創立 90 周年の恵みの中、YMCA と共に未来を開く」

“Blessing of club 90th anniversary, open the future with YMCA”

<今月の聖句>

古賀 健一郎

終わりに、兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。

(コリントの信徒への手紙二 13章 11節)

今月のひとこと

『テーマパークより大切なもの』

大高 治



7月24日には2020東京オリンピックの開会式が予定されていました。コロナ禍がなければ世紀の祭典、どんなに盛大であったことでしょう。

横浜市で開催される野球、ソフトボール、サッカーでは市民ボランティアとして、私は関内駅か新横浜駅周辺で「シティーガイド」を務めていたと思います。

どのような人たちとどのような触れ合いがあったことでしょうか。

市民ボランティアに対し、来年のオリンピック・パラリンピックの開催に関するアンケート調査がありました。中止すべきか、縮小すべきか等々。私は「変更の検討はまだ早い。ワ

クチンの開発も進んでいる。コロナを何処までコントロール出来るか見極めてからが良い」と答えました。良い方向への進展を願っていましたが、一端下火になった日本のコロナ感染者数は大変な勢いで、増加し始めました。

こうした中、横浜のカジノ IR 誘致反対陣営に朗報が飛び込んで来ました。カジノの運営会社が日本進出を断念するとのニュースです。コロナのパンデミックにより、カジノ経営が窮地に追い詰められて来たと言うのです。

ところが、ホットする間もなく「横浜にディズニー級テーマパーク構想」と大きく報じられました。横浜市西部に広がる242ヘクタール(東京ドーム52個分)の米軍の通信施設跡地での、東京ディズニーランド級の大型テーマパーク構想です。相鉄や民間地権者が検討に参画し、横浜市も公共交通機関の新設や区画整理で後押しし、事業者の誘致の成否は不透明ながらも、現時点で少なくとも1,300億円規模の公的資金の投入を見込むとのこと。

多くの識者は「今後、BC (Before Coronavirus) の社会には戻らない。社会構造は変わる」と言って来ました。だがコロナ禍中の段階で、BC に戻す政策がどこかで検討されていたのです。「Go to travel」は多少の犠牲を伴いながらも、経済の回復を狙った呼び水政策と思います。だが政府も地方自治体もこれを何度も繰り返すことは出来ないでしょう。巨大なテーマパーク構想はAC (After Corona) に相応しいプランなのであろうか。人の接触を制限するテーマパークは成り立つのだろうか。

日立や富士通など大手企業では入社する人を1/3にして、これをロテートし、定期券を買うだけの交通費は出さないと発表しています。Telework の進んだ先進的な会社も同様の施

＜2020年8月例会実績 Zoom 併用開催＞

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 8名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 15名 ゲスト 8名 合計 31名	75 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

＜9月の行事予定＞

ユース、STEP、YEPP、YIA

日	曜	時間	行事内容	場所
1	火	19:00	第88回 Y-Ys 協議会	中央 Y+Zoom
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央 Y+Zoom
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

策を採用し、そのような会社は今後どんどん増えて行くこと
でしょう。ワクチンが出来、With Corona の時代になっても
BC には戻らない経営が始まっているのです。帰りがけに一
杯やる人口は1/3に減るのです。反面家族の団らんが増え、
長年の社会的課題の一つも良い方向に向おうとしています。

「満員電車での出社日が減る。自宅は遠くても良い」という
発想で郊外に移転する人が出て来たのです。

横浜クラブでも Zoom を取り入れ始めました。その結果、
予期せぬ展開が見えて来ました。Zoom 併用の会合により、他
のクラブの方々をお招きすることが容易になるでしょうから、
他のクラブの例会への参加の機会も増すでしょう。湘南・沖
縄部の方針にあるクラブ間の交流、合同例会の開催も容易に
なりそうです。

現下の第二次感染では当初接待を伴う歓楽街でのホストク
ラブ等が挙げられ、今や日本の文化の一つになった居酒屋の
営業時間短縮も取り上げていました。一方無症状感染者や感
染経路不明者の増加も毎日報じられています。抜本的対策は
ないものだろうか。お店がお客を求めている中で、消費者は
「安心安全な社会」を求めています。行政は休業や操短を助
成金で支えるのではなく、安心安全なお店作りを支援し、消
費者には給付金ではなく、希望者への PCR 検査やワクチン
接種にも健康保険の適用を認める制度作りを望みます。そう
すれば AC に適合した社会作りが促され、経済、文化、観光
で世界的な人の移動、交流が早期に回復するのではなかろう
か。

一方、日本は食料の国産化率の極めて低い国です。コロナ
禍でも農業生産への影響は少ないと思いますが、何時でもど
こからでも野菜や穀物を輸入出来る保証はありません。日本
の食糧の国産化率を高めなければならないと言われて来まし
たが、実際に取り組む気配は見えません。AC の重点課題に
なることが望まれます。横浜市西部のテーマパーク構想と、
海岸地区の IR (統合型リゾート、ギャンブルセンター) 構
想は、同時進行の感があります。この広大な土地を生かし
て、AC での社会構造の変化であふれる人達を吸収する新し
い農業が勤めるようなことになれば素晴らしいと思います。

コロナのため、海外から日本に來られなくなった農業研修生
に代わり、仕事が無くなった第三次産業従事者の農場で働く
姿が TV に映し出されていました。テーマパークではなく農業
を推進して、食料の国産化率を高める土地利用も、パンデ
ミック後の社会を見据えた市民生活重視の政策となり、国策
の転換をも促す良い機会になることを望んで止みません。

「8月第一例会報告」

古田 和彦

日時：8月27日(金) 18:30~20:10

開催方法：会場と Zoom の併用 (ハイブリット) による開催

会場：横浜中央 YMCA 606 教室

出席者：伊藤、大高、奥菌、古賀、齋藤、佐竹、古田

ゲスト：大江浩(卓話者)、稲本誠一(元横浜 Y 常議員)、
山成健治(元横浜 Y 常議員)、山尾研一(町田聖書基督教
会牧師)、Joel Cloud(町田聖書基督教会)

ビジター：伊藤(東京多摩みなみ)、千葉(鎌倉)、加藤(横
浜とつか)、日下部、佐藤(厚木)、鈴木(横浜つづき)

Zoom 出席者：金子

ゲスト：秋元美晴(恵泉女学院名誉教授)、丸谷士都子(横
浜 Y 常議員)、茂木雄(元横浜 Y 理事)

ビジター：山下(十勝)、高田(千葉)、衣笠(埼玉)、太田
(東京町田スマイリング)、菰刈(東京サンライズ)、小原
(東京たんぼぼ)、辻(横浜つづき)、栗本(熱海)、福島
(熊本スピリット)

多人数の参加者と、試行錯誤の状態不安な中で、ハ
イブリット方式の例会が成功裏に終わることが出来たの
は、例会開始1時間半前から機材のセットなどに尽力くださ
った山尾研一牧師とジョエルさんの強力なサポートのお陰だ
と、心から感謝いたしております。まづもってお礼を申し上
げます。

定刻、齋藤ワイズの司会で開会。古賀会長の点鐘と挨拶、
全員でワイズの信条を唱和、今月の聖句と解説は押川ワイズ
に代わり古田ワイズが代読、開会祈禱をゲスト参加の山尾牧
師が行う。古賀会長が、ゲスト、ビジターの紹介、会場だけ
でなく、オンラインでの出席者も多数となりました。上記の
通りです。感謝に絶えません。

続いて早速、大江浩氏(興望館常務理事)から、卓話
「希望の扉~なぜなら、わたしは弱い時にこそ強いから
です」を伺いました。以下、概要を記します。

ソ連侵攻・内戦と破壊
し尽くされた国であるア
フガニスタンにおいて、
医療のみでは人を救え
ぬ、人々の命を守るため
にはきれいな水が必要で
あると灌漑事業にも尽力
された、クリスチャン医
師中村哲先生(2019年現地で武装勢力に銃撃され亡くな
られた)の話題を中心に話された。大江さんは、2002年
アフガン難民キャンプを訪れ、中村哲医師の現場を知る
機会を得られました。地道な働きが平和を創り出すとの
「草の根の平和」を实践された先生でした。宗教の壁を



卓話中の大江氏

越えて共に生きることを通して人々との信頼を築かれた中村医師の働きを、大江さんは現地ですっかりと見てこられた。卓話の最後に『We serve』（奉仕をする、仕える）という言葉を示されました。（医療従事者でない）私たちでも人は救える。絶望の時に、祈ることで、奉仕することで…。中村哲先生はアフガンの地域の人たちに『Dr. Serve（ドクター、サーブ）』と呼ばれていました。希望の扉を開けるのは私たち自身、一人ひとりです。『救いのない絶望の時であったとしても、今のコロナ禍にあっても、人は救えるのです。そのことに、私の救いがある』と捉えます。私たちは弱い時にこそ強い。ひとりでは出来ないことがある。しかし、人が協力し合った時に、私たちの『つながり』は強くなる。それは『ワイズ・YMCA のつながり』でもあります。私たちの働きは微力かもしれないが無力ではありません。この『つながり』が、私たちの世界や社会を希望があるものに変えていくと思います、と結ばれました。また、日本キリスト教医科連盟、社会福祉法人興望館とも関連して何う事が出来ました。

卓話に続いて、ビジネス。古賀会長から資料に基づき簡単に説明した後、伊藤幾夫東日本区会員増強事業主任から「アニバーサリー・プレゼント・プラン」の説明を受けました。Happy・バースデイは会場の古賀健一郎さん、Zoom 参加の辻剛さん、拍手でお祝いしました。ロバ献金は7,600 円でした。20:10 古賀会長の点鐘で閉会し、全員で記念撮影をしました。



エイズ文化フォーラム報告

古田和彦

第27 回目のエイズ文化フォーラムは、例年と異なり、オンラインで行われました。しかし、配信会場として例年通りかながわ県民センターを神奈川県のご厚意で使わせていただくことができ、また、例年通り、カトリック横浜教区、横浜のちの電話、横浜 YMCA、ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部の4 団体が組織委員を務めました。

期間は8月7日（金）から10日（日）までの3日間、17のオンライン分科会に延べ4,076人が日本全国から、また、海外からの参加もありました。

今年のテーマは、「リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう！」でした。7日（金）10時から行われた開会式では、佐竹博組織委員長（横浜 YMCA 総主事）からリアルに触れることの重要性や、フォーラムを通して大切なものに出会うことへの願いが語られ、筆者を含む各組織委員および神奈川県からは、フォーラムの意義、オンラインという新しい形態による期待が寄せられました。開会式に続くオープニングセッションでは、HIV 陽性者を含む4名が登壇し、「相変わらず感染症に振り回される日本」をテーマに、コロ

ナウイルス過で不安があるなか、情報を正しく取捨選択していくことの大切さが語られました。その後、9日まで、「私たちを分断する様々な『ダメ、ゼッタイ』行き過ぎた予防啓発と規制の功罪」、「宗教と AIDS」、「水谷修さんに聞く、若者たちの今」などのセッションが展開されました。

運営においては、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、配信会場での運営スタッフも最少人数に止め、かながわ県民センターの定める感染症防止ガイドラインに即し、手指の消毒・洗浄、ソーシャルディスタンスの確保、使用施設の換気を行い、万全の注意が払われました。

近況「アブノーマル」が「ニューノーマル」へ

伊藤 誠彦



先の見えないコロナ禍が続いている。いつまで続くのだろうか。コロナ禍が収束しても、人々の暮らしや働き方は元の姿に戻るのではなく新しい常態（ニューノーマル）ともいべき形にパラダイムシフトするだろうという。

ニューノーマルは私たちの日常生活の多岐にわたるが、現在の自分の日常生活に強く関連する事項に絞るとその内容は「人との接触を極力回避する」ことに尽きるように思う。

不要不急の外出を避ける。用件はできるだけ人との接触を避けてデジタル機器を活用して、飲食を伴う夜間の外出は自粛する、などなど・・・

「不要不急」と言われると、今の自分に不要不急でない用件など存在しないと思う。強いて言えば病院・医者通い程度である。映画「男はつよいよ」の寅さん風に言えば、「それを言っちゃおしまいよ」と言うことになる。

ニューノーマルの卑近な具体例として、テレワークやオンライン授業などが取り沙汰されている。「テレワーク」については、40年前、未来学者アルビン・トフラーが著書「第三の波」（1980年）で「エレクトロニック住宅（コテージ）」の概念で予見し、その社会的・経済的・心理的影響について論じている。当時、夢中で読んだものだ。今、読み返してもその内容の新鮮さにはいささかも陰りが無い。

三密回避、不要不急の外出自粛にはストレスを感じるという人も多いが、不思議と自分は感じない。なぜだろうと考えてみると、コロナ禍前の生活スタイルと今の生活スタイルはほとんど変わっていないことに気がつく。

人とのコミュニケーションは、対面はおろか、電話でもなく、ほぼすべて電子メールに依存している。ワイズのブリテン担当の役割も部書記の役割も多くは、パソコン上で完結する。毎週自治会館に集まって楽しんでた趣味の囲碁についても、今は自粛が続いている。人によっては別の基会所に出かけて楽しんでいるが、自分はパソコンで囲碁ソフトと対局して楽しんでいるので、それほど苦にならない。外出は自粛していない。そもそも普段から外出は一日2時間程度の散歩（これを徘徊という人もいる）が日課である。あまり人が通らない道を歩くので人と接触する機会も少ない。お酒を飲むための夜の夕食もしない。どちらかというところ、お酒はほどよく爛をした日本酒を手酌でチビリチビリとやるのが好みだ。人と一緒に飲むのも嫌いではないが、酒を飲みながら大声でし

やべるのは趣味ではない。

このように他人から見るとチョット異常(アブノーマル)な生活スタイルはアフターコロナのニューノーマルな生活スタイルだ。まさに「アブノーマルがニューノーマルに」なっているわけであり、これまでの自分の生活スタイルも捨てたものではないと思っている。まあ、そのような考え方をすること自体が、アブノーマルなのかもしれないが・・・

第二例会報告

古賀 健一郎

日時: 8月20日(木) 17:30~19:00 (Zoom 例会)

出席者: 伊藤、大高、金子、古賀、古田

協議・確認・検討事項

(1) 今後の行事予定の確認

(2) 協議・報告事項

1) 8月第1例会(8月27日 18:30~20:15)

ハイブリッド例会実施(横浜中央YMCA 606 教室+ Zoom 機能も併用) 卓話者 大江 浩氏(興望館常務理事)
★スピーカーフォン(2台セット)28,000円で購入。事前テスト済みで聴取環境改善。

2) 横浜クラブ90周年記念行事実施のための準備

① 記念式典: 2020年12月12日(土)

・礼拝と例会を実施。懇親会は新型コロナウイルスの影響を鑑みて中止を決定。

・ハイブリッド記念式実施(横浜中央YMCA チャペル+ Zoom 機能も併用)

・記念式の詳細(開始時間・人数・内容)は後日協議。

② 熊本スピリットクラブとのDBCは前に進める→連絡の担当は齋藤ワイズ

③ クラブ90年誌の編集計画を具体化していく(12月発行)

3) 横浜クラブ90周年記念行事の一貫として、9、10、11月の卓話者を横浜クラブと関係の深い方々をお願いする。

・9月(9月10日) - 加藤利榮(横浜とつか)

・10月(10月8日) - 未定

・11月(11月12日) - 高田一彦(千葉)

4) 横浜クラブホームページ・パンフレットの整備

5) タウンニュース(西区・中区版)取材・掲載

・7月25日(株)タウンニュース社 横浜中央支社 清田義知副社長より取材を受けた(古田・大高(紹介者)・古賀・横浜Y(広報担当)が対応)

・8月6日号(西区・中区版)横浜クラブ・横浜Yの記事掲載

6) 沖縄那覇クラブメンバーの早期復帰問題への取り組み

・横浜クラブは、1966年設立の沖縄那覇のスポンサークラブ。現在の「沖縄那覇クラブの休会・解散へ」の動きを憂い、なんとか“翻意する努力”をしたい。

7) 9月ブリテン計画、会計報告

され8カ月の闘病生活を送った佐々木禎子さんです。この話に心を打たれた同級生や、当時広島YMCAの会員などにより1955年に募金活動が始まり、3年後に広島平和記念公園内に禎子さんをモデルとした「原爆の子の像」がたてられました。そして現在まで、核兵器の悲惨さの認識と核廃絶への取り組みとして、この時期には全国のYMCAで平和週間プログラムを行い、全国のYMCAの会員やユースによって三万羽を越える鶴を「原爆の子の像」に献納してきました。

しかしながら、今年は新型コロナウイルスの影響を受け、折り鶴を集めることができませんでした。そこで原爆が投下された当時に思いを馳せつつ、各地のYMCAで平和について考えることとなりました。

広島YMCAでは、8月4日に、ピースボートのご協力により、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)事務局長のベアトリス・フィン氏(2017年ノーベル平和賞受賞)をお呼びし、「核兵器廃絶に向けてYMCAのユースに望むこと」をテーマに、オンラインで講演と対話を行いました。全国YMCAからユースを中心に約60名が参加し、ベアトリス・フィン事務局長のスピーチを聞き、核兵器廃絶や自分たちの地域でできる平和活動とは何かを考える機会となりました。

9月例会プログラム

日時: 9月10日(木) 18:30~20:15

場所: 横浜中央YMCA 606 教室

司会: 古田 和彦

1. 開会点鐘及び挨拶 古賀会長
2. ワイズの信条 全員
3. 今月の聖句 古賀ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介 古賀会長
5. 卓話「ワズとワタシ」
加藤 利榮ワイズ(横浜とつかクラブ)
6. ビジネス・報告 古賀会長
7. Happy Birthday 奥菌 伯子
8. 閉会点鐘 古賀会長

例会報告: 伊藤 誠彦

10月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
3	土	13:00	次期部長選考委員会	とつかY
3	土	15:00	湘南・沖縄部部大会	とつかY
8	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y+Zoom
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
31	土		次期部長・主任研修会	

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥菌一紀にご連絡下さい。

メール okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080



担当主事 奥菌 一紀

「折鶴を千羽折ると願いが叶う」と信じて病床で鶴を折り続けた少女がいました。2歳の時に原爆による黒い雨で被爆し、およそ10年後に突然白血病と診断